

メイヨークリニック研修に参加した方々からのレター

メイヨークリニック体験記

笠松由利

(学校法人 兵庫医科大学病院)

1. 自己紹介

大学病院で教育を担当している看護次長です。

2. なぜ木村看護教育振興財団のメイヨークリニック研修に行こうと思ったか

大学や所属病院主催の海外研修に参加しましたが、短期間のため自身が疑問に思っていることの解決には至りませんでした。さらに深く学ぶ方法を検索していたときに、個人の課題に合わせて研修プログラムが作成されるという木村看護教育振興財団の海外研修を知り、参加を希望しました。

3. メイヨークリニック研修で学んだこと

(1) メイヨークリニックでのある日の研修状況

【教育担当者とのディスカッション】

私は、看護部の現任教育プログラムを企画・運営する役割を担っています。そのため、メイヨークリニックの看護師(看護管理者含む)教育システムについて深く学びたいと希望していました。当初の研修プログラムにはなかったのですが、急遽、メイヨークリニックの研修責任者とディスカッションできる時間を調整してくれました。とても柔軟に対応してくださったので、配慮に感動しました。

メイヨークリニックの研修責任者は、教育に関する大学院博士課程を修了した看護師でした。彼女は、2～3名の博士課程修了者と共に組織の看護師教育に関する役割を担っているとのことでした。専門的な知識・技術に関しては、CNSが企画し運営しますが、研修の評価や教育全体の運営に関しては、彼女たちのチームがイニシアチブを取っていました。

私は看護師教育と評価方法について学びたかったのですが、このディスカッションで、それまでの研修の各単元での1つ1つの学びをしっかりと関連させることができました。

研修に関するいくつかの資料を持参してくれていて、その中の研修に関する評価の仕方の資料はとても役立ちました。例えば、日本では研修の評価は主に、研修後のアンケートで行うことが多く、当院では『カークパトリックの4段階評価法』の第2段階（学習者の学習到達度の評価）に留まっているのですが、メイヨークリニックでは評価法を工夫し、第4段階まで評価されていました。看護管理者を巻き込む苦労や評価結果を出す大変さもあるようでしたが、より効果的な研修実施に向けて組織全体で取り組む方法を学びました。ディスカッションの中で質問したことについて、補足資料を後日、届けてくれるなど、研修生に対してとても配慮してくださいました。

(2) メイヨークリニックで学んだこと

3週間の研修では、本当にたくさんのことを学ぶことができました。専門的知識・技術だけでなく、特に組織文化の醸成の仕方、組織や看護部が大切にしている価値観を浸透させる方法など、システム作りの大切さを学ぶことができたのは、大きな収穫でした。そして「世界で最高の看護ケアを提供する」というビジョンの下、「優秀な看護師は、優秀な教育によって作られる」をモットーに、よりレベルの高い教育を追求していく姿勢や活動を管理者が維持し、率先して実行する重要性を学びました。

(3) メイヨークリニックでの研修中、休日は何をしていたか

休日は、研修担当者が企画してくれたミシシッピリバーツアーやアーミッシュのツアーに行ったりしました。また看護スタッフがホームパーティに招待してくれ、自宅を訪問し、バーベキューの後、子供たちと裏の広場でバドミントンをしたりして遊びました。ホテルの近くのスーパーのスコーンがおいしかったのが忘れられません。

4. メイヨークリニックから帰って自分の中で変わったことや所属医療機関への還元

教育の担当者が言っていた言葉、「組織がやり方を決めるのではなく、自分たちで納得のいく決め方を選択し実施している。どんなやり方でもいい、結果を出せばよい。それはデータが示している」をいつも思い出し、新しいやり方を追求すること、データを示すことを重要視するようになりました。帰国後、メイヨークリニックでの学びを参考に、所属医療機関の教育と評価システムを刷新しました。

5. 英語力をつけるためにどのように勉強したか

個人レッスンを受けたのと、海外の医療ドラマの DVD を購入し、何度も観ました。

6. メイヨークリニック研修への準備と心構え

事前にインターネットや文献等で、米国の医療や看護についての情報を得ておくと、英語が聞き取りにくくても理解できる部分があると思います。研修生同士、助け合って3週間の研修に臨むので、コミュニケーションを深め協調性をもって行動することが大切です。しかし実習に行くときは一人なので、自律した行動も必要です。